

使役表現

1. 使役表現とは

能動文を為す動詞を原動詞と呼ぶとすると、原動詞に使役の派生接辞を付した使役形を述語とし、原動詞で表される動作の引き起こし手（使役者）である名詞句を主語（主格）とするのが、日本語の使役文である。

日本語記述文法研究会（編）（2009：261）は、日本語の使役文の意味的なタイプを3つに大別している（説明の便宜上、用法の配列を変更している）。

- ・使役者が間接的に事態の成立に関わる使役文
 - (1) 警察官が男を止まらせた。（能動的使役文）
 - (2) 申請者を全員入国させた。（受容的使役文）
- ・使役者が事態の成立に積極的に関わらない使役文
 - (3) 私は飼い犬を死なせた。（有責的使役文）
- ・使役者が直接的に事態の成立に関わる使役文
 - (4) 鈴木の突然の来訪がみんなを驚かせた。（原因的使役文）
 - (5) 私は車を走らせた。（他動的使役文）

能動的使役文は「強制」の使役、受容的使役文は「許容・許可」の使役と呼ばれることもある。また、(6)のような「放任」の使役と呼ばれるものも、受容的使役文の一種とみなせる。

- (6) 子どもを自由に公園で遊ばせた。（受容的使役文）

能動的使役文、受容的使役文、有責的使役文は基本的に有情主語をとるが、原因的使役文は(4)のように非情主語をとる場合と(7)のように有情主語をとる場合があり、他動的使役文は(5)のように有情主語をとる場合と(8)のように非情主語をとる場合がある。

- (7) 私は、思いやりに欠けることばで、母を泣かせてしまった。（原因的使役文）
- (8) 規制緩和が経済を活性化させた。（他動的使役文）

有情主語のみが可能な能動的使役文、受容的使役文、有責的使役文は、この順で主語の人物が事態に関与する度合いが弱まる。また、非情主語が可能な原因的使役文、他動的使役文は、「使役者が直接的に事態の成立に関わる」という点で他動詞構文に近い。

ここで、使役文の関連表現として、受益表現のテモラウ文を取り上げておく。テモラウ文は、使役文と同様の格関係の構文をとり得るため、使役文とテモラウ文は同一の事態を表す表現として選択関係が生じる場合がある。特に受益性が明らかな事態である場合には、使役文を使用すると不自然になり、受益性を明示するテモラウ文を選択することになる。

- (9) 太郎が[使役者] 次郎に[被使役者(動作主)] 買い物に行かせる。
- (10) 太郎が[受益者] 次郎に[与益者(動作主)] 買い物に行ってもらう。
- (11) 私は次郎にカメラの使い方を {?教えさせた/教えてもらった}。

2. 使役表現の歴史

現代語（共通語）の使役形の派生接辞は、「(サ)セル」（一段型活用）であり、古代語の「(サ)ス」（二段型活用）を直接の由来としている。また、古代語には「シム」（二段型活用）があり、上代では「シム」のみが使用されていたが、中古から「(サ)ス」が使用されるようになり、「シム」はもっぱら漢文訓読系の文章で用いられるようになったとされる。

青木（2021）によると、上代語の「シム」は「使役主体Xや動作主体Yに非情物が来る場合を

除くと、「強制」用法しか見られず、中古語の「(サ)ス」も同様に「強制」用法しか存在しなかったものと見られる」のに対し、中世に入ると「放任」や「許容・許可」の例が現れるようになるという(青木 2021: 4-7)。また、「非情の使役」として、有情主語・非情動作主の他動的使役文は上代からみられる一方で、非情主語の原因的使役文は「古代語ではごくわずかしか見られない」とし、「非情の使役」という枠組み自体は、そもそも日本語に存在しており、中国語の翻訳にあたっては欧文の翻訳にあたっては、これを用いることができたが、「これらはやはり「翻訳」調の「堅い」言い方であるという認識もまた、一貫して存在したものである」と述べている(青木 2021: 17-22)。

ところで、現代語(共通語)には他に、「書かす」「見さす」「来さす」「勉強さす」という派生接辞「(サ)ス」による使役形があるが、これは多段型の活用をするもので、二段型活用の古代語の「(サ)ス」に直接由来するものとは言えない。「沸かす」「冷やす」「鳴らす」「壊す」「潰す」「消す」「落とす」などの他動詞(いずれも多段型動詞)の語尾の「ス」を、使役形をつくる汎用の接辞として析出したものと考えられ、成立は「(サ)ス」(二段型活用)が「(サ)セル」(一段型活用)に移行した中世期以降だと考えられるが、詳細はわかっていない。

3. 諸方言の使役表現

使用地域の広いものとして、(サ)セル系、(サ)ス系、シム系の3系列とそれらを組み合わせた二重使役形がある。使用地域は広くないが、(サ)カス系の使役形もある。

3.1 (サ)セル系

(サ)セル系の使役形は、(琉球の一部方言を除き)全国的に広く使用されている。一段型動詞では「ミラセル」(見させる)、「来る」では「コラセル」(来させる)のように、動詞部分がr語幹化(ラ行五段化)する方言がある。(サ)セル系の使役形は一段型(もしくは二段型)動詞に準じた活用をする。

3.2 (サ)ス系

共通語の「(サ)ス」による使役形は、「書かす」のような多段型動詞に接続するものは許容度が高いが、「見さす」「来さす」「勉強さす」などの一段型動詞、「来る」、「する」に接続するものの許容度は低く、また、「書かした」(過去形)、「書かして」(中止形)、「書かそう」(意志形)の許容度は高いが、「書かせば」(仮定形)、「書かせ」(命令形)の許容度は低いなど、用法に制限がある。関連して、多段型動詞の使役受身形は「書かさされる」のような接辞「ス」による使役形が使用されやすいが、一段型動詞、「来る」、「する」は接辞「サス」による使役形(「見かさされる」「来かさされる」「さされる」)は使用しにくいという用法の片寄りもある(日本語記述文法研究会(編) 2009)。

(サ)ス系の使役形は、北海道(一部)、関東、中部、近畿、中国、四国、九州(一部)、琉球(一部)の方言で使用され、東北の方言ではほとんど使用されない。用法に制限がある方言と制限がない(制限が弱い)方言があり、北陸、近畿、中国、四国地方の方言には制限がない(制限が弱い)ものが多い(図1参照)。また、使役受身形では(サ)ス系の使役形が使用されやすい傾向がある(図2参照)。

表1は、東京都方言(60代女性)と山口県東周防方言(50代女性)の(サ)ス系の使役形の活用表である。

表1 (サ)ス系の使役形の活用表

	東京都方言		山口県東周防方言	
	書く	見る	書く	見る
断定非過去	カカス	△ミサス	カカス	ミサス
断定過去	カカシタ	ミサシタ	カカシタ	ミサシタ
命令	×カカセ	×ミサセ	△カカセ	△ミサセ
意志	カカソー	△ミサソー	カカソー	ミサソー
中止	カカシテ	ミサシテ	カカシテ	ミサシテ
仮定	×カカセバ カカシャ (一)	×ミサセバ ×ミサシャ (一)	カカシャー	ミサシャー
否定	カカサナイ	△ミササナイ	カカサン	ミササン
受身形	カカサレル	×ミササレル	カカサレル	ミササレル

一段型動詞では「ミラス」(見させる)、「来る」では「コラス」(来させる)、「する」では「セラス」(させる)のように、動詞部分がr語幹化(ラ行五段化)する方言がある。さらに「ラ」が「ヤ」に音変化し、「キヤス」(来させる)、「シヤス」(させる)のようになる方言もある。(サ)ス系の使役形は多段型動詞に準じた活用をする。

琉球方言には(サ)ス系の使役形をもつものがあるが、首里方言の場合、'jacjun(焼く)(<'jakjun<'jak-i 'un)から'jak-asun(焼かす)、?aki:n(開ける)から?akir-asun(開けさす)のような使役形の派生は可能だが、'wakasun(沸かす)、ke:sun(返す)、?utusun(落とす)のような語幹末子音がsの他動詞やsun(する)は(サ)ス系の使役形を派生させることができない。こうした動詞ではシム系の接辞による使役形が使用される(西岡・仲原2000、當山2015)。

3.3 シム系

琉球方言には、シム系の使役形をもつものがあり、(サ)ス系の使役形と併用される場合、(サ)ス系の使役形は〈強制・指令〉を表し、シム系の使役形は〈許可・放任〉を表す。

(サ)ス系の使役形に先行動詞の制限がある首里方言の場合、'jak-asun(焼かす)と'jak-asjimi:n(焼かしむ)では前者が〈強制・指令〉、後者が〈許可・放任〉の意味になるが、(サ)ス系の使役形を派生させることができない'wakasun(沸かす)などはシム系の使役形'wak-ajimi:n(沸かしむ)が、文脈によって〈強制・指令〉の意味を表す場合も〈許可・放任〉の意味を表す場合もある(當山2015)。

また、テモラウ文に相当する受納動詞の補助動詞構文が発達していない琉球方言では、共通語ではテモラウ文が使用されるような事態において使役文が使用される場合がある。以下は首里方言の例で、テモラウ文で訳出される方言文でシム系の使役形が使用されている(當山2015)。

(12) tanme:=ja ?aja:=ni zjo: ?akirasjimitan.
祖父=は 母=に 門を 開けて もらった。

(13) hanako:=ja ?ibi sjikantakutu taro:=nkai tanudi ?ibi kamasjimitan.
花子=は えびが きらいなので、太郎=に 頼んで えびを 食べて もらった。

3.4 (サ)カス系

静岡県の一部の方言に、(サ)カス系の使役形の報告がある。『方言文法全国地図』(GAJ)の使役形の項目で、静岡市小^{おしか}鹿方言に、119 図「書かせる」カカカス、120 図「来させる」コサカス、121

図「させる」ササカス、125 図「書かせられる」カカカサレルという(サ)カス系の使役形の回答がみられる。ここから、多段型動詞には基幹ア段形に「カス」、「来る」には基幹オ段形「コ」、「する」には基幹ア段形「サ」に「サカス」が付くことがわかる。

中條(1983)は、静岡市小鹿方言の動詞の活用の解説のなかで、いわゆる未然形(多段型動詞の基幹ア段形、一段型動詞の基幹)に接続する接辞として「(ラ)カス(使役)」をあげ、「使役・受身にいわゆるカス形が認められ、行カカス・食ベラカス、行カカセラレル・食ベラカ(カ)セラレルのように言う。これも主として高年層のものであり、特に受身のカス形は少ない。」(中條1983:164)と述べている。ここでの受身のカス形とは、使役受身形の使役形部分を指していることから、使役形を成す接辞に「カス」があること、多段型動詞には基幹ア段形に「カス」、一段型動詞には基幹に「ラカス」が付くことがわかる。「ラカス」の「ラ」は、一段型動詞がr語幹化(ラ行五段化)して生じたものとみなせるため、ここでは「ラカス」も(サ)カス系の一種として扱う。

『方言文法全国地図』(GAJ)の使役形に関わる他の分布図をみると、122 図「書かせろ」、123 図「書かせた」、124 図「書かせよう」には(サ)カス系の使役形は回答されていないことから、この形式には用法に片寄りがあるとみられる。また、(サ)カス系の使役形は断定非過去形語尾が「ス」であることと、使役受身形が「カカサレル」であることから多段型動詞に準じた活用をすると推定される。なお、中條(1983)の記述にある「行カカセラレル」「食ベラカ(カ)セラレル」は、一段型活用の(サ)カセル系使役形の存在を予想させるが、詳細は不明である。

3.5 二重使役形

共通語の(サ)セル形は、「書かせさせる」のような二重使役形にはならないが、西日本方言の(サ)ス形では、「父親が母親に(言っ)て)子供をアソバサス」のような二重使役形が可能であり、使役者が誰かを介して非使役者の行為を引き起こす意味が表される(松丸2002)。(サ)ス系の使役形とシム系の使役形をもつ琉球方言では、シム系の使役形にス系の使役形接辞を後接させて二重使役形を成す。以下は首里方言の例である(當山2015)。

- (14) zjiru:=ga taru:=ni hanako:=nkai kusui numasjimirasun.
 次郎=が 太郎=に(言っ)て) 花子=に 薬を 飲ま(さ)せる。

参考文献

- 青木博史(2021)「日本語使役文の用法と歴史的変化」筑紫日本語研究会(編)『筑紫語学論叢Ⅲ—日本語の構造と変化—』風間書房
 国立国語研究所(編)(1994)『方言文法全国地図3』国立印刷局
 佐々木冠(2000)「水海道方言の使役文」『文藝言語研究・言語篇』38
 當山奈那(2013a)「沖縄県首里方言における使役文の意味構造」『日本語文法』13-2
 當山奈那(2013b)「沖縄首里方言の使役動調と他動性」『琉球アジア社会文化研究会』16、琉球アジア社会文化研究会
 當山奈那(2015)「沖縄首里方言におけるヴォイスと利益性の記述文法研究」琉球大学博士論文
 中條修(1983)「静岡県の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一(編)『講座方言学6 中部地方の方言』国書刊行会
 西岡敏・仲原穰(2000)『沖縄語の入門 たのしいウチナーグチ』白水社
 日本語記述文法研究会(編)(2009)『現代日本語文法2』くろしお出版
 松丸真大(2002)「高知県幡多方言の使役形式—活用体系変化の一過程—」『阪大日本語研究』14

(日高水穂)

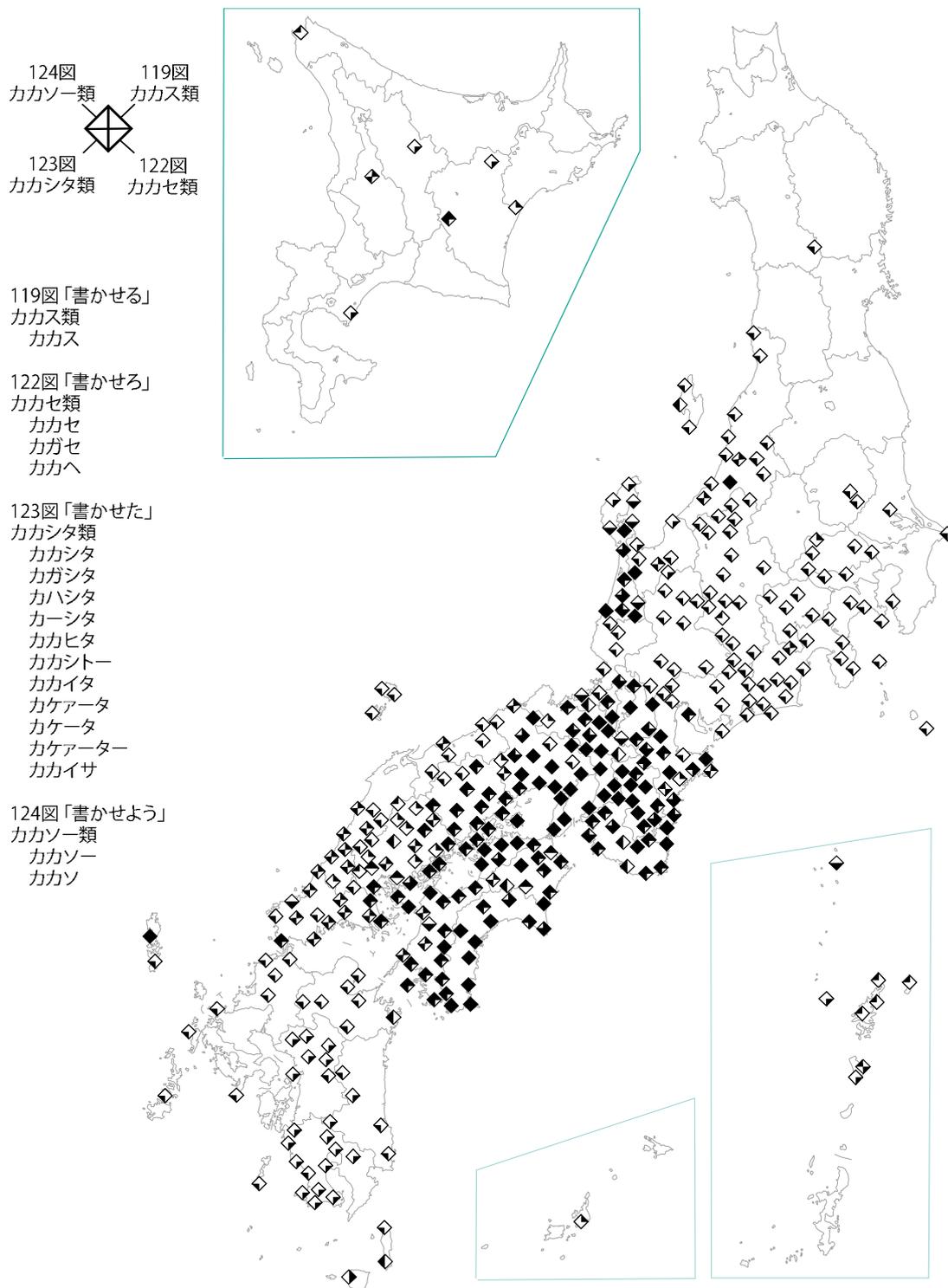


図1 GAJ119「書かせる」・122図「書かせろ」・123図「書かせた」・124図「書かせよう」の
 (サ)ス系使役形の出現総合図(黒塗り:出現 白抜き:非出現)
 (作図:日高水穂)

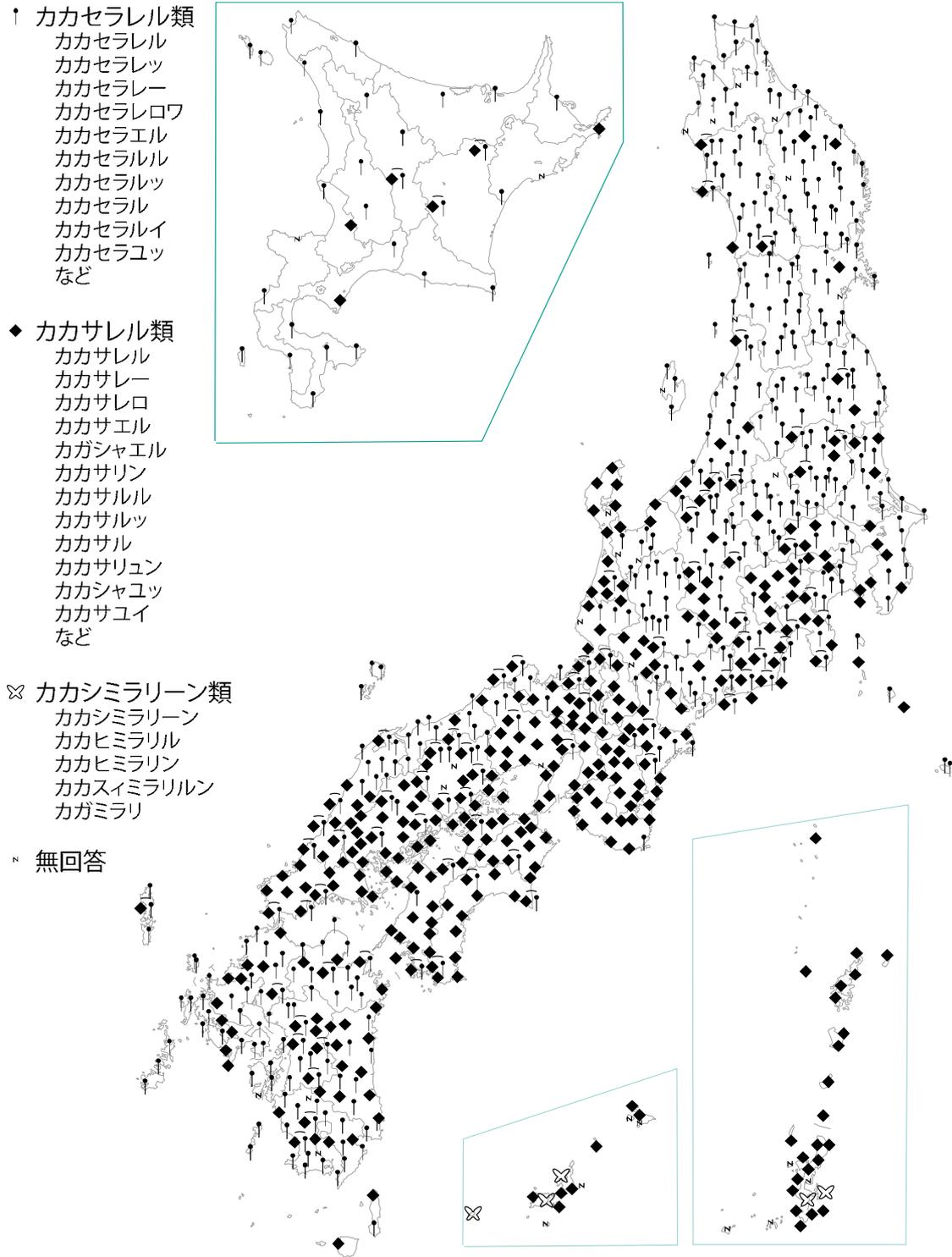


図2 GAJ125 「無理に手紙を書かせられる」
 (作図：日高水穂)

要地方言活用体系記述 使役形

【活用表抜粋】

番号	要地方言	多段型 書く	一段型 見る	来る	する	多段型 特殊	二段型/三段型
01	北海道北見市常呂町岐阜方言	カカセル	ミサセル	コサセル	サセル		
02	青森県五所川原市方言	カガヘル	ミサヘル ミラヘル	コサヘル コラヘル	サヘル		
03	岩手県盛岡市方言	カカシエル	ミサシエル	コサシエル	サシエル		
04	宮城県仙台市方言	カカセル	ミサセル	コサセル コラセル	サセル		
05	秋田県由利本荘市本荘方言	カカシエル	ミサシエル ミラシエル	コサシエル コラシエル	サシエル		
06	山形県山形市方言	カカセル	ミサセル	コサセル	サセル		
07	福島県福島市方言	カガセル	ミラセル	コラセル	(一段型)		
08	茨城県水海道方言	カカセル	ミラセル	キラセル	サセル		
10	群馬県藤岡市方言	カカセル カカス	ミサセル ミサス	キサセル キサス	サセル サス		
12	千葉県南房総市三芳方言	カーセル	ミサセル	コサセル	サセル		
13-1	東京都方言	カカセル △カカス	ミサセル △ミサス	コサセル △コサス	サセル △サス		
13-2	東京都八丈島三根方言	カカセロフ	ミサセロフ	コサセロフ	サセロフ		
14	神奈川県大和市方言	カカス カカセル	ミサス ミサセル	コサス コサセル	サス サセル		
15-1	新潟県新潟市方言	カカセル	ミサセル	コサセル	サセル		
15-2	新潟県魚沼市方言	カカセル	ミサセル	コサセル	サセル		
16	富山県富山市方言	カカセル カカス	ミサセル ミサス	コサセル コサス	サセル サス		
17	石川県能登島方言	カカセル カカス	ミサセル ミサス	コサセル コサス	サセル サス		
18-1	福井県大野市方言	カカス カカセル	ミサス ミサセル	コサス コサセル	サス サセル		
18-2	福井県坂井市三国町安島方言	カカス	ミラス	コラス	サス	食う ッファス	
19	山梨県甲府市方言	カカス カカセル	ミサス ミサセル	コサス コサセル	サス サセル		
20	長野県茅野市方言	カカセル カカス	ミサセル ミラセル ミサス	コサセル コラセル コサス	サセル		
21-1	岐阜県高山市方言	カカス	ミサス	コサス	サス		
21-2	岐阜県岐阜市方言	カカス カカセル	ミサス ミサセル	コサス コサセル	サス サセル		
21-3	岐阜県中津川市方言	カカセル カカス	ミサセル ミサス	コサセル コサス	サセル サス		
22	静岡県湖西市方言	カカス カカセル	ミサス ミサセル	コサス コサセル	サス サセル		
23	愛知県新城市作手方言	カカス カカセル	ミサス ミサセル	コサス コサセル	サス サセル		
25-1	滋賀県長浜市方言	カカス	ミサス	コサス	サス		
25-2	滋賀県湖東方言	カカス カカセル	ミサス ミサセル	コサス コサセル	サス サセル		
26	京都府京都市方言	カカス カカセル	ミサス ミサセル	コサス キヤス コサセル	サス シヤス サセル		
27	大阪府方言	カカス	ミサス	コサス	サス		
28	兵庫県神戸市方言	カカセル カカス	ミサセル ミサス	コサセル コサス	サセル サス		
30	和歌山県田辺市龍神方言	カカセル カカスル カカス	ミサセル ミサスル ミサス	コサセル コサスル コサス	サセル サスル サス		起きる オキサセル 起きる オキサスル 起きる オキサス
31	鳥取県倉吉市方言	カカセル	ミサセル	コサセル	サセル	死ぬ シナセル	
32	鳥根県出雲市平田方言	カカセー	ミサセー ミラセー	コサセー	サセー	死ぬ スイナセー	

33	岡山県岡山市方言	カカス カカセル	ミサス ミサセル ミラセル	コサス コサセル コラセル	サス サセル	死ぬ シナス 死ぬ シナセル	
34	広島県三次市方言	カカス カカセル	ミサス ミサセル	コサス コサセル	サス サセル	死ぬ シナス 死ぬ シナセル	
35	山口県東周防方言	カカセル カカス	ミサセル ミサス	コサセル コサス	サセル サス	死ぬ シナス 死ぬ シナス	
37	香川県高松市方言	カカス △カカセル	ミサス △ミサセル	コサス △コサセル	サス △サセル		
38-1	愛媛県松山市方言	カカス カカセル	ミサス ミサセル	コサス コサセル	サス サセル	死ぬ シナス 死ぬ シナセル	
38-2	愛媛県大洲方言	カカス	ミサス	コサス	サス	いぬ イナス	
39	高知県宿毛市方言	カカス カカサス	ミサス ミラス ミラサス	コサス コラス コラサス	サス セラス ササス セラサス	死ぬ シナス 死ぬ シナサス	
40-1	福岡県福岡市方言	カカス カカセル	ミサス ミサセル △ミラセル	コサス コサセル	サス サセル		
40-2	福岡県柳川市方言	カカスル	ミサスル	コサスル	サスル		食べる タベサスル
41	佐賀県武雄市北方方言	カカスツ	ミサスツ	コラスツ	サスツ		閉める シメサスツ
42-1	長崎県雲仙市南串山町鬼池方言	カカセル	ミサセル ミサス	コラセル コラス	サスル サス		投げる ナグサス 投げる ナゲサス
42-2	長崎県佐世保市宇久町方言	カカスル	ミラスル	コラスル	サスル		開ける アケサスル
44-1	大分県由布市庄内町方言	カカスル	ミラスル	キラスル	サスル	死ぬ シナスル	起きる オキラスル 開ける アケラスル
44-2	大分県日田市天瀬町方言	カカセル	ミサセル	コラスル	サスル	死ぬ シナセル	起きる オキサセル 開ける アケサセル
46-1	鹿児島県鹿児島市方言	カカスツ	ミスツ	キサスツ キラスツ	サスツ		受ける ウケサスツ
46-2	鹿児島県甑島里方言	カカスイ カカス	ミサスイ ミサス ミラスイ	キサスイ キサス キラスイ コラス コサスイ コサス	サスイ サス		止める ヤメサスイ 止める ヤメサス

番号	要地方言	a類 持つ	b類 見る	来る	する			
47-1	沖縄県那覇市首里方言	ムタスン ムタシミーン	ン(ー)ダスン ン(ー)ダシミーン ミシーン	クーラスン クーラシミーン	《シミーン》			
番号	要地方言	a1類 書く	a1類 読む	a1類 笑う	a1類 言う	a2類 居る	a3類 死ぬ	
47-2	沖縄県宮古島市 平良下里方言	カカシウ カカシウマイウ	ユマシウ ユマシウマイウ	バラーシウ バラーシウマイウ	アイウザシウ アイウザシウマイウ	ウラシウ ウラシウマイウ	シウナシウ シウナシウマイウ	
		b類 見る	来る	する				
		ミーシウマイウ	クーシウマイウ	《シウマイウ》				
番号	要地方言	三段型 (1-i) 書く	三段型 (1-ii) 乗る・登る	三段型 (1-iii) 形容詞の動詞化接 辞	三段型 (2) 出す	三段型 (3-i) 買う	三段型 (3-ii) 思う	三段型 (4-i) 読む
47-3	沖縄県宮古島市 久松方言	カカス カカシミツ	ヌーラス ヌーラシミツ	カラス	イダサス イダサシミツ	カー カーシミツ	ウマース ウマーシミツ	ユマス ユマシミツ
		三段型 (4-ii) 眠る	三段型 (4-iii) 切 る	一段型 (1) 探す	一段型 (2) 「来る」の敬語*	一段型 (2) 「する」の敬語、尊 敬接辞	不規則 (r/ii) いる	不規則 (r/SP) ある
		ニヴヴァス ニヴヴァシミツ	キツヴァス キツヴァシミツ	トゥシミツ	ンメーシミツ	(サ)マシミツ	ウラス ウラシミツ	(該当形 欠)
		不規則 (ff/r) 降る	不規則 (r/ss) 知る・知っている	不規則 (n/i) 死ぬ	不規則 (z/SP) 来る	不規則 (ii/ss/SP) する		
		ツファス/フラス ツファシミツ/ フラシミツ	ツサス ツサシミツ	スナス スナシミツ	クーシミツ	シーシミツ シミツ		

番号	要地方言	多段一般型 書く	多段一般型 待つ	多段一般型 干す	多段一般型 取る	多段一般型 食う	多段特殊型 居る
47-4	沖縄県多良間島方言	カカス	マタス	ブシャス	トゥラス	ファース	ブラス
		カカスミリ ^o	マタスミリ ^o	ブシャスミリ ^o	トゥラスミリ ^o	ファースミリ ^o	ブラスミリ ^o
		一段一般型 見る	一段特殊型 死ぬ	来る	する		
		△ミーッスミリ ^o	スナス	キヤサス	《スミリ》		
			スナスミリ ^o	キヤサスミリ ^o			
番号	要地方言	多段一般型 書く	多段r語幹型 踊る	多段特殊型 いる	二段型 出る	来る	する
47-5	沖縄県竹富町黒島方言	ハカス	ブドゥラス	ブラス	ンジツサシル	キツサシル	シミル
番号	要地方言	三段一般型 書く	三段特殊型 洗う	一段型 開ける	不規則型 来る	不規則型 思う	不規則型 叱る
47-6	沖縄県与那国方言	カガミルン	アラミルン	アギラミルン	クラミルン	ウマミルン	イヤミルン

【解説抜粋】

『全国方言文法辞典資料集(2)～(5)・(7)～(9)』掲載の「要地方言の活用体系記述」の動詞の〈使役形〉の記述を抽出し、用語等の統一をはかって再編集した。用例の出典については、元原稿を参照のこと。なお、以下の方言については、執筆担当者による改稿（情報追加）が行われている。

47-1 沖縄県那覇市首里方言（仲原稜）

01 北海道北見市常呂町岐阜方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「セル」が、一段型動詞は基幹（＝語幹）に「サセル」が、「来る」は「コ」に「サセル」が、「する」は「サ」に「セル」が付く。使役形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・ジブンデ ナマエオ カカセル。(自分で手紙を書かせる。)
- ・ハナコニ ヒトリデ ニュースオ ミサセル。(花子に一人でニュースを見させる。)
- ・ハナコオ ココニ コサセル。(花子をここに来させる。)
- ・タローニ ヒトリデ シゴトオ サセル。(太郎に一人で仕事をさせる。)

(朝日祥之)

02 青森県五所川原市方言

〈使役形〉

多段型動詞はア段形に「ヘル」が、一段型動詞は基幹（＝語幹）に「サヘル」「ラヘル」が、「来る」は「コ」に「サヘル」「ラヘル」が、「する」は「サ」に「ヘル」が付く。このうち、「ラヘル」はr語幹化による形式である。使役形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・ンダ ソシテ シラヘルダ (そう、そうやって知らせるんだ) [市史]

(田附敏尚)

03 岩手県盛岡市方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「シエル」が付く。その際、「ワラウ(笑う)」「カックラウ(かっ食らう)」などワ行の多段型動詞はア段形の「ワ」を省略して付く。

- ・わらすき、餡っこねぶらしえる。(子供に、餡を舐めさせる。)(中谷 a・「ねぶる」)
- ・いまぬ見でろ、かっくらしえるがら。(今に見ている、食らわせるから。)(中谷 a・「くらしえる」)
- ・いづまで立だしえる気だ？(いつまで立たせる気だ？)(松本 a・「奉安殿」)

一段型動詞は基幹（＝語幹）に「サシエル」が、「来る」は「コ」に「サシエル」が、「する」は「サ」に「シエル」が付く。

- ・子供だずき映画ずっぱどミサシエル。(子供たちに映画をたくさん見させる。)
- ・こさせる。(来させる。)(細越・「こさせる」)
- ・きんなよふがすさしえだのが？(昨日は夜更かしをさせたのか？)

使役形は一段型動詞に準じた活用をする。

(竹田晃子)

04 宮城県仙台市方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「セル」が、一段型動詞は基幹（＝語幹）に「サセル」が、「来る」は「コ」

に「サセル」「ラセル」が、「する」は「サ」に「セル」が付く。このうち、「ラセル」はr語幹化による形式である。使役形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・ワラスヌ ナマミズ ノマセンナヨ。(子供に生水を飲ませるなよ。)[仙台方言]
- ・コンドノ ヤスミヌデモ ヨバツテ イヅロード ツロー オラエサ コラセツカ。(今度の休みにでも呼んで、一郎と二郎とを、おれの家に来させるか。)[仙台方言]

(武田拓)

05 秋田県由利本荘市本荘方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「シエル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サシエル」「ラシエル」が、「来る」は「コ」に「サシエル」「ラシエル」が、「する」は「サ」に「シエル」が付く。このうち、「ラシエル」はr語幹化による形式である。使役形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・「やだってゆったのに ぐりっぐりど引き受けらしえらえでしまった。」(嫌だと言ったのに、強引に引き受けさせられてしまった。)(本荘 a・「ぐりっぐりど」)

(日高水穂)

06 山形県山形市方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「セル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サセル」が、「来る」は「コ」に「サセル」が、「する」は「サ」に「セル」が付く。「セ」は口蓋化して「シェ」になることがある。使役形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・アイズノ ホーガ° ジ ウマイガラ、アイズサ {カガセル／カガシエル}。(あいつのほうが字がうまいから、あいつに書かせる。)
- ・アツチガ° ツゴ° ー ワレンナラ、コツチサ {コサセル／コサシエル}。(あっちが都合が悪いなら、こっちに来させる。)
- ・ニガイノ ソージワ コドモダチサ {サセル／サシエル}。(二階の掃除は子どもたちにさせる。)

(竹田晃子・澤村美幸)

07 福島県福島市方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「セル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「ラセル」が、「来る」は「コ」に「ラセル」が付く。使役形ではr語幹化による形式が県内に広く認められる。使役形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・ヨグ ヤラセラレルネ。(よくさせられるね。)[幡 2005]
- ・タタセタノ ワスレテ カエツチャツタンダト。(立たせたの忘れて帰ってしまったんだって。)[幡 2005]
- ・ヘータイ ツラーット ナラバセデ(兵隊をずらっと並ばせて)[幡 2005]
- ・シケン ウゲラセツカド オモー。(試験を受けさせようかと思う。)

(半沢康)

08 茨城県水海道方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「セル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「ラセル」が、「来る」は「キ」に「ラセル」が、「する」は「サ」に「セル」が付く。このうち、「ラセル」はr語幹化による形式である。使役形は一段型動詞に準じた活用をする。なお、一段型・「来る」の「ラセル」は、現代の伝統方言話者が用いている形式だが、『土』にはこの形態が見られず、一段型動詞には「サセル」が用いられている。

- ・オラ アレコト オジチャンゲ バケラセトイタ(俺は彼をお祖父さんに甘えさせておいた。)[佐々木 2004]
- ・オメ アレゲ ケーヤクショ カカセタ(お前は彼に契約書を書かせた。)[佐々木 2004]
- ・俺らも仲間入させてもらえてもんだ(俺たちも仲間入りさせてもらいたいものだ。)[土]
- ・えゝから、よきげ嘗めさせろ(いいから、与吉に嘗めさせろ。)[土]

(佐々木冠)

10 群馬県藤岡市方言

〈使役形〉

多段型動詞は、基幹ア段形に「セル」または「ス」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サセル」または「サス」が付く。「来る」は「キ」に「サセル」ま

たは「サス」が付く形をとり、上一段化がすすんでいる。「する」は「サ」に「セル」または「ス」が付く。「セル」「サセル」は一段型動詞に準じた活用をし、「ス」「サス」は多段型動詞に準じた活用をする。

- ・ナンデモ アシニ カカス。(なんでも私に書かせる。)
- ・コドモニ ミサス。(子どもに見させる。)
- ・コンナ トコイ キサセル ワケジャ ナカッタ。(こんなところに来させるわけではなかった。)
- ・アシニ サスンカイ。(私にさせるのかい。)
(新井小枝子)

12 千葉県南房総市三芳方言

(三樹陽介)

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「セル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サセル」が、「来る」は「コ」に「サセル」が、「する」は「サ」に「セル」が付く。使役形は一段型動詞に準じた活用をする。以下の例で「手伝わせて」となっている箇所の実際の発音は/w/が脱落した[tetsuda:sete]である。

- ・弥助は、おきんに手伝わせてそれえ開(ひれゃ)あてみた。(弥助は、おきんに手伝わせてそれを開いてみた。)[増間]
(佐々木冠)

13-1 東京都方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「セル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サセル」が、「来る」は「コ」に「サセル」が、「する」は「サ」に「セル」が付く。この形は一段型動詞に準じた活用をする。「セル」に代わって「ス」、「サセル」に代わって「サス」が一部の活用形で使われることもある。「ス」「サス」は多段型動詞に準じた活用をする。ただし、「ス」「サス」の使用される活用形は限られており、仮定形「タラ」、中止形、過去形に多く、命令形、「バ」を接続する仮定形、否定形などは使われない。

- ・中の根っこをね、飲ませたんでしょ。(集成)
- ・女子大生にやらしたら全部できねー。(集成)
(三井はるみ)

13-2 東京都八丈島三根方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「セロワ」が、一段型

動詞は基幹(=語幹)に「サセロワ」が、「来る」は「コ」に「サセロワ」が、「する」は「サ」に「セロワ」が付く。使役形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・テンデデ ナメーヨ カカセロワ。(自分で(各自分で)名前を書かせる。)
- ・ハナコン トリデ ニュースウ ミサセロワ。(花子に一人でニュースを見させる。)
- ・ハナコウ ココゲー コサセロワ。(花子にここに来させる。)
- ・タローニ トリデ シゴトウ サセロワ。(太郎に一人で仕事をさせる。)

14 神奈川県大和市方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「ス」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サス」が、「来る」は「コ」に「サス」が、「する」は「サ」に「ス」が付く。この形は多段型動詞に準じた活用をする。ただし、「ス」「サス」は命令形、「バ」「レバ」が後続する仮定形、否定形では用いられない。また、多段型動詞は基幹ア段形に「セル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サセル」が、「来る」は「コ」に「サセル」が、「する」は「サ」に「セル」が付く形もある。この形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・シンメオ デタバカリノー タバサシテルウチニ((蚕に桑の)新芽が出たばかりのを食べさせているうちに)(方言1)
- ・カンゼンニネムラシテヤツテネ((蚕を)完全に眠らせてやってね)(方言1)
(坂本薫)

15-1 新潟県新潟市方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「セル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サセル」が、「来る」は「コ」に「サセル」が、「する」は「サ」に「セル」が付く。使役形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・テガミオ カカセル。(手紙を書かせる。)
- ・ハナコニ ヒトリデ ニュースオ ミサセル。(花子に一人でニュースを見させる。)
- ・ハナコニ マドオ アケサセル。(花子に窓を開けさせる。)

- ・ハナコオ ココニ コサセル。(花子をここに
来させる。)
- ・タローニ ヒトリデ シゴトオ サセル。(太
郎に一人で仕事をさせる。)

(三樹枝里)

15-2 新潟県魚沼市方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「セル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サセル」が、「来る」は「コ」に「サセル」が、「する」は「サ」に「セル」が付く。

使役形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・ナマエオ カカセル。(名前を書かせる。)
- ・ロクニ セワ シント キンギョオ シナセル。(ろくに世話をしないと、金魚を死なせる。)
- ・ハナコニ ヒトリデ ニュースオ ミサセル。
(花子に一人でニュースを見させる。)
- ・ハナコオ ココニ コサセル。(花子をここに
来させる。)
- ・タローニ ヒトリデ シゴトオ サセル。(太
郎に一人で仕事をさせる。)
- ・ハナコオ ココニ コサセレヤ。(花子をこ
こに来させろよ。)

(吉田雅子)

16 富山県富山市方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「セル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サセル」が、「来る」は「コ」に「サセル」が、「する」は「サ」に「セル」が付く。この形は一段型動詞に準じた活用をする。また、多段型動詞は基幹ア段形に「ス」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サス」が、「来る」は「コ」に「サス」が、「する」は「サ」に「ス」が付く形もある。この形は多段型動詞に準じた活用をする。

- ・こどもども学校 {いかした／いかせた}。(子
供たちを学校に行かせた。)

(小西いずみ)

17 石川県能登島方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「セル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サセル」が、「来る」は「コ」に「サセル」が、「する」は「サ」に「セル」が付く。

この形は一段型動詞に準じた活用をする。また、多段型動詞は基幹ア段形に「ス」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サス」が、「来る」は「コ」に「サス」が、「する」は「サ」に「ス」が付く形もある。この形は多段型動詞に準じた活用をする。

- ・ゴーロン ゴロンテ ホイッテテ ハヤイテ
ワ ダンダン イー チョーシオ ツケサ
セテワ。(ゴロンゴロンと「ホイッ」と言っ
てはやしてだんだんいい調子をつけさせて)

(向田)

- ・これは、ほんとの話や、わしらの子供の時に
母親が聞かしたもんじゃ、(これは本当の話
だ。私たちの子供のときに母親が聞かせたも
のだ。)(町史・「長者ヶ鼻」)

「セル」「サセル」形と「ス」「サス」形は同じよう
に使用されるわけではなく、活用形によってどち
らを使うかが異なるようである。例えば、過去形
の場合は「ノマイタ(ノマシタ)」のようにサス系を主
に使用し、否定形の場合は「ノマセン」のように「セ
ル」「サセル」形を主に使用するようである。

- ・クスリ ノマイタ。(薬を飲ませた。)
- ・クスリ ノマセンカイヤ。(薬を飲ませろ。)

(野間純平)

18-1 福井県大野市方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「セル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サセル」が、「来る」は「コ」に「サセル」が、「する」は「サ」に「セル」が付く。この形は一段型動詞に準じた活用をする。また、多段型動詞は基幹ア段形に「ス」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サス」が、「来る」は「コ」に「サス」が、「する」は「サ」に「ス」が付く形もある。この形は多段型動詞に準じた活用をする。

非過去形・過去形ではどちらの形式も使われるが、
否定形では「セル」形(「カカセン」「ミサセン」「コ
サセン」「サセン」等)が使われる。

- ・ナツワ オモ ニント ナマノゴト クワシ
タ。(夏の間はだいたい飼葉を煮ないで生の
まま食べさせた。)[市史(大月)] ※オモ：
主として。ゴト：冬、馬に与えるために刈っ
て干した草

(松倉昂平)

18-2 福井県坂井市三国町安島方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「ス」、一段型動詞は基幹 (= 語幹) に「ラス」、「来る」は「コ」に「ラス」、「する」は「サ」に「ス」が付く。このうち、「ラス」は r 語幹化による形式である。ほぼ多段型動詞と同様の活用をするが否定形が「～セン」も併用する点は不規則的である。

使役形は以下のように活用する。

非過去形	カカス
過去形	カカシタ
命令形	カカセ
禁止形	カカスナ
意志形	カカソ
仮定形	カカセア、カカシタラ
否定形	カカサン、カカセン

- ・トツショッド イスネ ネマラシタ。(年寄り
を椅子に座らせた。) ※ネマル：座る
- ・ウチマデ モツテコラソサ。(家まで持って来
させようよ。)
- ・ンダラモ タベラサレタンヤッテ。(私たちも
食べさせられたんだって。)

(松倉昂平)

19 山梨県甲府市方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「セル」が、一段型動詞は基幹 (= 語幹) に「サセル」が、「来る」は「コ」に「サセル」が、「する」は「サ」に「セル」が付く。この形は一段型動詞に準じた活用をする。また、多段型動詞は基幹ア段形に「ス」が、一段型動詞は基幹 (= 語幹) に「サス」が、「来る」は「コ」に「サス」が、「する」は「サ」に「ス」が付く形もある。この形は多段型動詞に準じた活用をする。

高年層ほど「セル」の形式を用いる傾向が見られる。

- ・「妹に部屋の障子を開けさせざー。」(妹に部屋の障子を開けさせよう。)(市史)
- ・「太郎を役場に行かせっか。」(太郎を役場に行かせようか。[「行かせずか」より]) (市史)
- ・「もっと早く起こさせろばよかったに。」(もっと早く起こさせればよかったのに。)(市史)

(吉田雅子)

20 長野県茅野市方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「セル」が、一段型動詞は基幹 (= 語幹) に「サセル」または「ラセル」が、「来る」は「コ」に「サセル」または「ラセル」が、「する」は「サ」に「セル」が付く。この形は一段型動詞に準じた活用をする。なお、「する」には「セル」接続の「シラセル」は用いられない。また、多段型動詞は基幹ア段形に「ス」が、一段型動詞は基幹 (= 語幹) に「サス」が、「来る」は「コ」に「サス」が付く形もある。この形は多段型動詞に準じた活用をする。なお、「する」には「ス」接続の「サス」は用いられない。

- ・ウチノ イヌモ トシ トッタデ シガセル。
(うちの犬も年を取ったので、死なせる(ことにした)。)

(大西拓一郎)

21-1 岐阜県高山市方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「ス」が、一段型動詞は基幹 (= 語幹) に「サス」が、「来る」は「コ」に「サス」が、「する」は「サ」に「ス」が付く。この形は多段型動詞に準じた活用をする。

「カカセル」「ミサセル」「コサセル」「サセル」のような一段型の活用をする形も用いられるが、「カカス」「ミサス」「コサス」「サス」のような多段型の使役形がより一般的である。

(山田敏弘)

21-2 岐阜県岐阜市方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「ス」が、一段型動詞は基幹 (= 語幹) に「サス」が、「来る」は「コ」に「サス」が、「する」は「サ」に「ス」が付く。この形は多段型動詞に準じた活用をする。

「カカセル」「ミサセル」「コサセル」「サセル」のような一段型動詞型の活用をする形も用いられるが、「カカス」「ミサス」「コサス」「サス」のような多段型の使役形がより一般的である。特に、「カカシタ」「カカシテ」のような、過去形とテ形は、一段型活用はほぼ使われない。

(山田敏弘)

21-3 岐阜県中津川市方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「ス」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サス」が、「来る」は「コ」に「サス」が、「する」は「サ」に「ス」が付く。また、多段型動詞は基幹ア段形に「セル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サセル」が、「来る」は「コ」に「サセル」が、「する」は「サ」に「セル」が付く形もある。「ス」「サス」は多段型動詞に準じた活用をし、「セル」「サセル」は一段型動詞に準じた活用をする。

・ムカエニ {イカス/イカセル} デ マットリ。(迎えに行かせるから待っていないさい。)

・コンド アンタンチ {トメサイ/トメサセ} テ。(今度、あなたの家に泊めさせて。)

(野田太暉)

22 静岡県湖西市方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「ス」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サス」が、「来る」は「コ」に「サス」が、「する」は「サ」に「ス」が付く。この形は多段型動詞に準じた活用をする。また、多段型動詞は基幹ア段形に「セル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サセル」が、「来る」は「コ」に「サセル」が、「する」は「サ」に「セル」が付く形もある。この形は一段型動詞に準じた活用をする。

・オムカエワ ハナコニ {イカセル/イカス} デネ。(お迎えは花子に行かせるからね。)

(森勇太)

23 愛知県新城市作手方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「ス」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サス」が、「来る」は「コ」に「サス」が、「する」は「サ」に「ス」が付く。この形は多段型動詞に準じた活用をする。また、多段型動詞は基幹ア段形に「セル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サセル」が、「来る」は「コ」に「サセル」が、「する」は「サ」に「セル」が付く形もある。この形は一段型動詞に準じた活用をする。

どちらも差が無く用いられるが、過去形では「～シタ」が好まれるようである。

・またゆっくり寄らせてもらうでえん。(またゆ

っくり寄らせてもらいますよ。)(村誌)

・ここでご無礼させてもらうてん。(ここでご失礼させてもらいますよ。)(村誌)

(山田敏弘)

25-1 滋賀県長浜市方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「ス」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サス」が、「来る」は「コ」に「サス」が、「する」は「サ」に「ス」が付く。使役形は多段型動詞に準じた活用をする。

・主役を引き立てさす。(主役を引き立たせる。)

(酒井雅史)

25-2 滋賀県湖東方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「ス」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サス」が、「来る」は「コ」に「サス」が、「する」は「サ」に「ス」が付く。この形は多段型動詞に準じた活用をする。また、多段型動詞は基幹ア段形に「セル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サセル」が、「来る」は「コ」に「サセル」が、「する」は「サ」に「セル」が付く形もある。この形は一段型動詞に準じた活用をする。「ス」「サス」形と「セル」「サセル」形では、「ス」「サス」形のほうが優勢である。

・子供には「マクリ」たらゆ一煎じ薬みたいな、漢方薬みたいもんを飲ましたりしました(子供には「マクリ」とかいう煎じ薬のような漢方薬のようなものを飲ませたりしました)(武邑 p.18)

・ご飯を炊いて食べさすちゅーよーな余裕はありませなんだでなーし(ご飯を炊いて食べさせるというような余裕はありませんでしたからねえ)(武邑 p.138)

・なかなかわしらには、班長はさせてもらえなんだでなー(なかなか私達には、班長はさせてもらえなかったからねえ)(武邑 p.126)

(逸民誠)

26 京都府京都市方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「ス」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サス」が、「来る」は「コ」に「サス」が、「する」は「サ」に「ス」が付く。「来

る」「する」の場合は、「キ」「シ」に「ヤス」を付けた形「キヤス」「シヤス」という形もある。この「ヤス」は「ラス」の r が j に変化した形であると考えられる。この形は多段型動詞に準じた活用をする。また、多段型動詞は基幹ア段形に「セル」が、一段型動詞は基幹 (= 語幹) に「サセル」が、「来る」は「コ」に「サセル」が、「する」は「サ」に「セル」が付く形もある。この形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・「なんとかおかあさんに蛸を食べさせてあげたいわ、」(何とかお母さんに凧を食べさせてあげたいよ) (京都・「蛸薬師」)
- ・言うて、どんどんたべさせはったそうや。(と言って、どんどん食べさせられたそうだ) (京都・「みょうが」)

(松丸真大)

27 大阪府方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「ス」が、一段型動詞は基幹 (= 語幹) に「サス」が、「来る」は「コ」に「サス」が、「する」は「サ」に「ス」が付く。使役形は多段型動詞に準じた活用をする。

- ・金持ちは、それを聞いて、すぐに手伝いの男にいつけて、子ギツネをつれてこさしたんや。(金持ちは、それを聞いて、すぐに手伝いの男にいつけて、子ギツネをつれてこさせたんだ。) (大阪・「キツネにだまされた金持ち」)

(野間純平)

28 兵庫県神戸市方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「セル」が、一段型動詞は基幹 (= 語幹) に「サセル」が、「来る」は「コ」に「サセル」が、「する」は「サ」に「セル」が付く。この形は一段型動詞に準じた活用をする。また、多段型動詞は基幹ア段形に「ス」が、一段型動詞は基幹 (= 語幹) に「サス」が、「来る」は「コ」に「サス」が、「する」は「サ」に「ス」が付く形もある。この形は多段型動詞に準じた活用をする。

- ・オキタラ ジブンデ アルカセルカラ イマワ エーヤン。(目を覚ましたら自分で歩かせるから今はいいじゃないか。)

- ・ソナ ダラシナイ ヤツナンヤツタラ、ソイツダケ ハヨ コサセタラ エーネン。(そんなにだらしのない人なら、その人だけ早く来させればいいんだよ。)

(酒井雅史)

30 和歌山県田辺市龍神方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「セル」または「スル」が付く。一段型動詞は基幹 (= 語幹) に、二段型動詞は動詞によってイ段形かエ段形に「サセル」または「サスル」が付く。「来る」は「コ」に「サセル」または「サスル」が付く。「する」は「サ」に「セル」または「スル」が付く。また、多段型動詞は基幹ア段形に「ス」が、一段型動詞は基幹 (= 語幹) に「サス」が、「来る」は「コ」に「サス」が、「する」は「サ」に「ス」が付く形もある。

以上のうち seru, saseru 形は一段型、su, sasuru 形は多段型の活用をする。また、使役の接辞は seru / saseru に変わって suru / sasuru となり、接辞が二段化することがあるが、2017 年調査では高年層で使用意識があり、中年層話者になかった。2001 年調査 (回答者は全て大正生まれ) では、全員が suru / sasuru を使用する。

- ・コドモヤケド ナマエグライワ ジブンデ {カカセル/カカスル/カカス}。(子供だけ、名前ぐらいは自分で書かせる。)
- ・コノ バングミワ コドモニ マイニチ {ミサセル/ミサスル/ミサス}。(この番組は、子供に毎日見させる。)
- ・ハナコオ ココニ {コサセル/コサスル/コサス}。(花子をここに来させる。)
- ・タローニ ヒトリデ シゴトオ {サセル/サスル}。(太郎に一人で仕事をさせる。)

ミラスやオキラス、コラスルなどのような r 語幹化は、2017 年調査では見られない。2001 年調査では「ミラス」が 1 名 (4 名中) に見られるのみであった。

(西尾純二・澤村美幸)

31 鳥取県倉吉市方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「セル」が、一段型動詞は基幹 (= 語幹) に「サセル」が、「来る」は「コ」

に「サセル」が、「する」は「サ」に「セル」が付く。使役形は一段型動詞に準じた活用をするが、過去形など一部の活用形において、「サセル」ではなく多段型活用の「サス」に由来すると考えられる形が使用されることがある。例えば、過去形では「サセタ」と「サシタ」の2つの形があり、前者は一段型、後者は多段型である。

- ・「なんとまあ、こん夜ひとようさ、とまらしてごしなはらんか。」(なんとまあ、今夜一晩、泊まらせてくださらないか。)[鳥取「福がついたおとつあん」]
- ・そがしょうむんなら、とまらせてひんぜるわい。(そうするのなら、泊まらせてあげるよ。)[鳥取「福がついたおとつあん」]
- ・ココニ コサシエツケ チョット マットツテーナ。(ここに来させるから、ちょっと待っていてね。)

(野間純平)

32 島根県出雲市平田方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「セー(se-ru)」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サセー(sase-ru)」または「ラセー(rase-ru)」が、「来る」は「コ」に「サセー」が、「する」は「サ」に「セー」が付く。使役形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・アカチャンニ ツツ ノマセー。(赤ちゃんに乳を飲ませる。)
- ・ワルノワ アノスダケン {ワビサセー/ワビラセー}。(悪いのはあの人だから、わびさせる。)
- ・フッパッテデモ コサセー。(引っ張ってでも来させる。)

なお、以下のような「~カス」という言い方が一部見られたが、詳細は不明である。

- ・アイツオ ホエカス。(あいつを泣かせる。)
- (平子達也・友定賢治)

33 岡山県岡山市方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「ス」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サス」が、「来る」は「コ」に「サス」が、「する」は「サ」に「ス」が付く。この形は多段型動詞に準じた活用をする。また、多段型

動詞は基幹ア段形に「セル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サセル」が、「来る」は「コ」に「サセル」が、「する」は「サ」に「セル」が付く形もある。高年層には一段型動詞と「来る」にr語幹化した「ラセル」を後接させた形も聞かれる。この形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・ハナコニ ヒトリデ ニュースオ {ミサセル/ミサス/ミラセル}。(花子に一人でニュースを見させる。)

(小島裕将)

34 広島県三次市方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「ス」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サス」が、「来る」は「コ」に「サス」が、「する」は「サ」に「ス」が付く。この形は多段型動詞に準じた活用をする。また、多段型動詞は基幹ア段形に「セル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サセル」が、「来る」は「コ」に「サセル」が、「する」は「サ」に「セル」が付く形もある。この形は一段型動詞に準じた活用をする。「ス」「サス」形と「セル」「サセル」形では、「ス」「サス」形のほうが優勢である。

- ・ロクスツボ セワモ セズニ キンギョー シナシテシモータ。(ろくに世話をせず、金魚を死なせてしまった。)
- ・ハナコエ ヒトリデ ニュースー ミサス。(花子に一人でニュースを見させる。)
- ・タローニ ヒトリデ シゴトー {サス/サセル}。(太郎に一人で仕事をさせる。)

(小西いづみ)

35 山口県東周防方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「セル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サセル」が、「来る」は「コ」に「サセル」が、「する」は「サ」に「セル」が付く。この形は一段型動詞に準じた活用をする。また、多段型動詞は基幹ア段形に「ス」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サス」が、「来る」は「コ」に「サス」が、「する」は「サ」に「ス」が付く形もある。この形は多段型動詞に準じた活用をする。

(船木礼子)

37 香川県高松市方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「ス」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サス」が、「来る」は「コ」に「サス」が、「する」は「サ」に「ス」が付く。また、多段型動詞は基幹ア段形に「セル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サセル」が、「来る」は「コ」に「サセル」が、「する」は「サ」に「セル」が付く形もある。「ス」「サス」形と「セル」「サセル」形では、「ス」「サス」形のほうがよく行われる。

- ・タローニ テガミオ {カカス/カカセル}。
(太郎に手紙を書かせる。)
 - ・タローオ ナガイコト ヘヤニ {オラス/オラセル}。(太郎を長い間部屋にいさせる。)
 - ・ジュンジュンニ イナス。(順番に帰らせる。)
- [D]
- ・ハナコニ マドオ アケサス。(花子に窓を開けさせる。)
 - ・ハナコニ シトリデ イヌノ メンドー ミサセルカー？(花子に一人で犬の面倒をみさせるか？)
 - ・ハナコオ ココニ コサセルワ。(花子をここに来させるよ。)
 - ・タローニ スキナ シゴトオ {サス/サセル}。(太郎に好きな仕事をさせる。)
 - ・ハヤシノ ヒコージョー ヤラレタラ イカンケン、 テマエデ タマ ナシン サスタメ ユーテ、 ヒトカラ キータン。(林<=林町>の飛行場がやられたらいけないから、手前で弾を無くさせるためといって、人から聞いたんだ。)[B]

「ス」「サス」形は多段型動詞に準じた活用をする。一方、「セル」「サセル」形については、「～セタ/～サセタ」という形(一段型動詞に準じた使役の過去形)や、「～ショー/～サショー」という形(「する」に準じた使役の意志形)の出現はみられない。このことと、断定形で「ス」「サス」形の方がよく現れること、使役受身形(⇒受身形の解説参照)で「ス」「サス」形が現れることから、方言としての使役形は「ス」「サス」であり、「セル」「サセル」は断定形のみで共通語的に現れていると考えられる。

- ・ハナコニ シトリデ イヌノ メンドー ミサセー。(花子に一人で犬の面倒をみさせろ。)
- ・コドモニ クワシタ。(子どもに食べさせた。)
- ・コドモニワ クワサン。(子どもには食べさせない。)
- ・スキナヨーニ サシタラ エーガー。(好きなようにさせたらいいじゃないか。)

(乙武香里)

38-1 愛媛県松山市方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「ス」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サス」が、「来る」は「コ」に「サス」が、「する」は「サ」に「ス」が付く。この形は多段型動詞に準じた活用をする。また、多段型動詞は基幹ア段形に「セル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サセル」が、「来る」は「コ」に「サセル」が、「する」は「サ」に「セル」が付く形もある。この形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・タローニ ヒトリデ シゴトオ サス(太郎に一人で仕事をさせる。)
- ・ジブンデ ナマエオ {カカス/カカセル}。
(自分で名前を書かせる。)

(久保博雅)

38-2 愛媛県大洲方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「ス」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サス」が、「来る」は「コ」に「サス」が、「する」は「サ」に「ス」が付く。

- ・マイニチ コドモニ ニッキオ カカス。(毎日子どもに日記を書かせる。)
- ・マイニチ マドオ アケサス。(毎日窓を開けさせる。)

断定非過去形をはじめ、使役を含む動詞語形を、カク/kak-/「書く」を例に下表に示す。使役形は多段型動詞に準じた活用をする。

使役断定非過去	カカス「書かせる」
使役断定過去	カカシタ「書かせた」
使役否定非過去	カカサン「書かせない」
使役否定過去	カカサナンダ・カカサンカッタ「書かせない」

(宮岡大)

39 高知県宿毛市方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「ス」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サス」または「ラス」が、「来る」は「コ」に「サス」または「ラス」が付く。「する」は「サ」に「ス」が付く形と「セ」に「ラス」が付く形がある。活用表にはあげていないが、「ス」「サス」「ラス」のほかに「セル」「サセル」「ラセル」系列の接辞を用いた形もある。前者は多段型動詞に準じた活用、後者は一段型動詞に準じた活用をする。

なお、使役接辞のサ行音がハ行音になることもある。特に、「キカシタ(聞かせた)」が「キカヒタ」になるように、「シ」が「ヒ」になることが多い。

- ・そんな、びんぼうぐらしでも、子どもだけには、正月にもちだけでもたべらしちゃらんかん。(そんな貧乏暮らしでも、子供だけには正月に餅だけでも食べさせてやらなければならぬ。)(昔話・高岡郡葉山村・「山んぼのもち」)

- ・トッショリシガ ハナヒテ ワシラニ キカヒタ (年寄り達が放して私たちに聞かせた。)(大月)

当該方言では、(1) 一段型動詞・「来る」・「する」のr語幹化と、(2) 「サス・サセル」の使役接辞化、という2つの変化が起こった結果、使役形式に複数のバリエーションが存在するようになった。「(サス)」系列の形式でそれぞれの変化をまとめると次のようになる。以下の表に「(サ)セル」形式のr語幹化と使役接辞化形式も加わるので、使役形式のバリエーションの数は多段型動詞で最大4種類、一段型動詞・「来る」で最大6種類、「する」で10種類となる。

	変化前	→	(1)	→	(2)
死ぬ	シナス		——		シナス
見る	ミサス		ミラス		ミラサス
来る	コサス		コラス		コラサス
する	サス		——		ササス
			セラス		セラサス

ただし(2)の変化は現在進行中であり、動詞によって生産性に違いがある。若年層になるほど多くの多段型動詞で(2)の形式があらわれる。

(松丸真大)

40-1 福岡県福岡市方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「ス」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サス」が、「来る」は「コ」に「サス」が、「する」は「サ」に「ス」が付く。また、多段型動詞は基幹ア段形に「セル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サセル」が、「来る」は「コ」に「サセル」が、「する」は「サ」に「セル」が付く形もある。「ス」「サス」は多段型動詞に準じた活用をし、「セル」「サセル」は一段型動詞に準じた活用をする。

「カカスル」「ミサスル」「コサスル」「サスル」のような古典語の二段活用的な「～スル」は、現在ではほとんど聞かれなくなっているといつてよい。また、一段型動詞についてはr語幹化した「ミラス」や「ミラセル」もあるが、使用頻度はやや低い。

- ・そげなこと言いよつたらまた {来さす/来させる} ぜ。(そんなこと言ったらまた来させるよ。)

(平塚雄亮)

40-2 福岡県柳川市方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「スル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サスル」が、「来る」は「コ」に「サスル」が、「する」は「サ」に「スル」が付く。

- ・テガミバ カカスル。(手紙を書かせる。)
- ・エーガバ ミサスル。(映画を見させる。)
- ・ゴハンバ タベサスル。(ご飯を食べさせる。)
- ・ソージ サスル。(掃除させる。)
- ・ウチニ コサスル。(うちに来させる。)

使役形は二段型動詞に準じた活用をする。過去の例を以下に示す。

- ・テガミバ カカセタ。(手紙を書かせた。)

(松岡葵)

41 佐賀県武雄市北方方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「スツ」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に、二段型動詞は基幹エ段形に「サスツ」が、「来る」は「コ」に「ラスツ」が、「する」は「サ」に「スツ」が付く。「オル(いる)」の使役形は特殊で、「オサスツ」という形をとる。使役

形の活用は現段階では不明である。

- ・カカスツ。(書かせる。)
- ・オサスツ。(いさせる。)
- ・ミサスツ。(見させる。)
- ・コラスツ。(来させる。)
- ・サスツ。(させる。)

(原田走一郎)

42-1 長崎県雲仙市南串山町鬼池方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「セル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サセル」または「サス」が付く。また、「する」は「サスル」と「サス」、「来る」は「コラスル」と「コラス」という2つの形式が併存している。

- ・キンギョバ シナセタ。(金魚を死なせた。)
- ・ハナコニ ニュースバ ミサセル。(花子にニュースを見させる。)
- ・コドモニ {マゼサス/マゼサセル}。(子どもに混ぜさせる。)
- ・タローニ ヒトリデ シゴトバ サスツトナ。(太郎に一人で仕事をさせるのだ。)
- ・ハナコバ コケ {コラス/コラスルツ}ト。(花子をここに来させるの。)

(野田智子・東出朋)

42-2 長崎県佐世保市宇久町方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「スル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「サスル」が、「来る」は「コ」に「サスル」が、「する」は「サ」に「スル」が付く。使役形は二段型動詞に準じた活用をする。

- ・ハナコニ ヒトーデ オキラスー。(花子に一人で起きさせる。)
- ・オレモ ケラセレヨ。(俺も蹴らせる。)
- ・オーバ オマエヨラ テマエ サセツクレレト。(俺をお前より手前にさせてくれよ。)
- ・ノマセンジャツタ。(飲まさなかった。)

(門屋飛央)

44-1 大分県由布市庄内町方言

〈使役形〉

多段一般・特殊型動詞には基幹ア段形に「スル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)、二段型動詞は基幹エ段形、三段型動詞は基幹イ段形に「ラスル」が、

「来る」は「キ」に「ラスル」が、「する」は「サ」に「スル」が付く。「ラスル」はr語幹化による形式である。使役形は二段型動詞に準じた活用をする。

- ・ムスコニ オヤン メンドー ミラスル。(息子に親の面倒を見させる。)

(松田美香)

44-2 大分県日田市天瀬町方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「セル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)、二段型動詞は動詞によって基幹イ段形か基幹エ段形に「サセル」が付く。「来る」は「コ」に「ラスル」が、「する」は「サ」に「スル」が付く。「来る」のみr語幹化が見られる。使役形は二段型動詞に準じた活用をする。

- ・タロー シバラクー ナカニ オラセチョキナイ。(太郎を長い間中に居させておきなさい。)
- ・ハナコニ ヒトリデ ニュースオ ミサセル。(花子に一人でニュースを見させる。)
- ・タローニ ヒトリデ シゴツ サスル。(太郎に一人で仕事をさせる。)
- ・ハナコオ ココニ コラスル。(花子をここに来させる。)

(松田美香)

46-1 鹿児島県鹿児島市方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に、一段型動詞は基幹(=語幹)に「スツ」が付く。二段型動詞は基幹エ段形に、「来る」は「キ」に「サスツ」または「ラスツ」が付く。「する」は「サ」に「スツ」が付く。「ラスツ」はr語幹化による形式である。使役形は二段型動詞に準じた活用をする。

- ・コドンニ カンジョ ドツサイ カカセタ。(子どもに漢字をたくさん書かせた。)

(平塚雄亮)

46-2 鹿児島県甕島里方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「スイ」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に、二段型動詞は基幹エ段形に「サスイ」が付く。「来る」は「キ」または「コ」に「サスイ」が、「する」は「サ」に「スイ」が付く。一段型動詞と「来る」はr語幹化した「ミラスイ」

「コラスイ」といった語形も存在する。また、多段型動詞は基幹ア段形に「ス」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に、二段型動詞は基幹エ段形に「サス」が、「来る」は「キ」または「コ」に「サス」が、「する」は「サ」に「ス」が付く形もある。「来る」にはr語幹化した「コラス」といった語形も存在する。「スイ」「サスイ」は二段型動詞に準じた活用をし、「ス」「サス」は多段型動詞に準じた活用をする。

- ・ソガンタ コト ユーオイギー マタ {キサスイ/コサスイ/コラスイ} デーナー。(そんなこと言ったらまた来させるからな。)

(平塚雄亮)

47-1 沖縄県那覇市首里方言

〈使役形〉

基本語幹の基幹ア段に「スン」(「す」に相当)が後接した形が用いられ、〈強制・指令〉の意味になる。「する」にあたる「スン」(する)や漢語と「する」が結び付いた「ピンチョー スン」(勉強する)のような動詞は「スン」の部分「シミー」に置き換えて使役形にすることができる。なお、使役形が「-シミー」語尾のとき〈許可・放任〉の意味になり、その行為を行うか否かは相手に委ねられている。

非過去形「-スン」の否定形は「-サン」、中止形は「-ツシ」、過去形は「-チャン」になる。非過去形「-シミー(シミュン)」の否定形は「-シミラン」、命令形は「-シミリヨー」「-シミレー」、中止形は「-シミティ」、過去形は「-シミタン」である。

當山奈那(2013「沖縄県首里方言における使役文の意味構造」、2014a「沖縄首里方言の使役動詞と他動性」、2022「琉球諸語における二重使役構文の述語形式」)によれば、首里方言の使役文には-asunを後接させる「第一使役」(ス形式)と-ajimi:nを後接させる「第二使役」(シム形式)があり、自動詞の語根にsunをつけて派生させたため語尾が「スン」になるs語幹末動詞(ワカスン「湧かす」、ウトゥスン「落とす」など)は「第一使役形」を作ることができない。また、使役主体が「第三者が対象に動作をさせる」ことをさせる、二重の使役関係がある「第三使役」-ashimirasun(シミラス形式)がある(當山2022によるとシミラス形式は北琉球諸語、なかでも沖縄語で多く見つかっている)。

- ・ウットゥンカイ スムチ ユマスン。(弟に本

を読ませる。) ※ [読む] + 「スン」

- ・ソージ シミーン。(掃除させる。)(辞書) [サ変動詞] + シミー
- ・アリガ マシヤシ トゥラシミレー。(あいつが好きなのを取らせる。) ※ [取る] + シミー <許可・放任>
- ・ジルーガ タルーニ ハナコーンカイ ミジヌマシミラスン。(次郎が太郎に(言って、)花子に水を飲ま(さ)せる。)(當山奈那2022: 143)

(仲原穰)

47-2 沖縄県宮古島市平良下里方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「シウ」(「す」に対応)が付く形と、「シウマイウ」(「しめる」に対応)が付く形の2種類の使役形がある。一段型動詞、「来る」においては、それぞれ「ミーシウマイウ」「クーシウマイウ」のように「シウマイウ」のみが後接する。「する」の使役は、「シウマイウ」が用いられる。「シウマイウ」は、古典語の「しむ」と同源であると考えられる。

- ・ウトウトゥンカイ カカシウ。(弟に書かせる。)
- ・ウトウトゥンカイ カカシウドウ ツスッタラ。(弟に書かせたら。)(※「カカシウドウ ツス」は、「書かせざる」に相当し、強調の表現となる。)
- ・カヌピウトゥンカイ カカシウマイウ。(あの人に書かせる。)
- ・ウトウトゥンカイ シキンヌ ウキシウマイウ。(弟に受けさせる。)(※N直後の助詞コ「を」に対応)は、ヌとなる。)

(中本謙)

47-3 沖縄県宮古島市久松方言

〈使役形〉

V_{III}の使役形は基幹3に「-ス」または「-シミツ」がつき、V_Iの使役形は基幹3に「-シミツ」のみがつくことが可能である。また、接辞「-ス」はV_{III(2)}の活用パターンに準じて活用し、接辞「-シミツ」はV_{I(1)}の活用パターンに準じて活用する。

- ・オカーガドゥ ウットゥンカイ マツチャガマンカイ {イカスター/イカシミター}。(お母さんが弟に店に行かせた。)(V_{III}:イキ

ッ-「行く」]

- ・カユー {×キッムイディサスター／キッムイディシミター}。(彼を怒らせた。)[V₁:キッムイディー-「怒る」]

V_{III(1-iii)}の「形容詞の動詞化接辞」は、「-カラス」という使役形のみあり、「-カラシミツ」という使役形はない。

- ・ホンヌ ニュー {タカカラシ／×タカカラシミル}。(本の値段を高くしなさい。)

不規則動詞「来る」の使役形は「クーシミツ」であり、不規則動詞「する」の使役形は「シーシミツ」になる。また、久松方言保存会(2020: 265)では、「する」の使役形として「シミツ」という形式も載っているが、許容しない話者もいる。

- ・ウイン シミル。(この人にさせなさい。)(久松方言保存会 2020: 265)

(陶天龍)

47-4 沖縄県多良間島方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に、一段型動詞は基幹(=語幹)に「ス」「スミリ°」が付く。なお「パナス」(話す、離す)など語末が「aス」である動詞の場合は「-(ス)ミリ°」の形のみを持つ。「来る」の使役形は基幹イ°段形に「サス」「サスミリ°」が付いた形となる。「する」の使役形には「スミリ°」が用いられる。

一段型動詞の使役形について、「ス」と「スミリ°」のいずれの形式でも基幹(=語幹)と接辞の間に促音がはさまれて発音されることが多い。スの形の命令形には、多段型s語幹と一段型(あるいは「する」型)の2系統の語形があらわれる(例「探させろ」多段型「トゥミッシ」、スル型「トゥミッシル」)。

その他、「着る」(キーリ°)、「見る」(ミーリ°)など基幹(=語幹)が1音節である一段型動詞の使役形は他の動詞とは異なるふるまいを見せている。例えば「着る」の使役形には多段型動詞の「切る」(キス)と同じ形式が用いられ、「キーリ°」を基とする形はあらわれない。

- ・ツファン ドゥーニー キンユ キスサス(子供に自分で服を着させる。)
- ・ヤラビン ウブニウ キスサス(子供に大根を切らせる。)

「見る」の使役形は「見させる」(ミーツスミリ°)だが、使役形よりも他動詞「見せる」(ミシリ°)を用いるのが普通である。

また「死ぬ」(スニリ°)の活用型は基本的に一段一般型動詞と同じであるが、その使役形は多段型と同じ子音語幹型({sin}を語幹とする型)のア段形で派生している。

- ・ツファウ イフシャン スナスタッロー(子供を戦で死なせたよ)

(下地賀代子)

47-5 沖縄県竹富町黒島方言

〈使役形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「ス」が、二段型動詞は基幹イ段形に「ツサシル」が付く。

- ・マーニ ハカシタ。(孫に書かせた。)

このように、使役の接尾辞自体は二段型の活用を示す。

「シール siiru (する)」の使役形は特殊であり、「シミル」を用いる。

- ・マーニ シュクダイユ シミタ。(孫に宿題をさせた。)

さらに、他動詞ですでに他動性を表す as を含む動詞には im という接尾辞を用いる。

- ・フカス (沸かす)
- ・フカシム (沸かさせる)

二重使役の場合、これと同様の形をとる。

- ・ハク (書く)
- ・ハカス (書かせる)
- ・ハカシム (書かさせる)
- ・ワカツキヌ ティガミユ ハクタ。(若月が手紙を書いた。)
- ・ワカツキニ ティガミユ ハカシタ。(若月に手紙を書かせた。)
- ・カメダヌ ワカツキニ ティガミユ ハカシミタ。(亀田が若月に手紙を書かせた。)

(原田走一郎)

47-6 沖縄県与那国方言

〈使役形〉

使役形は、指令・指示、許可を表す。また、「してもら」を表すためにも使われる。使役形の活用形は、一段型の動詞と同じように活用する。

三段一般型の使役形は、基幹ア段に「ミルン」を

後接させた形である(語幹に-amirun を後接させる)。

トゥブン(飛ぶ) トゥバミルン(飛ばせる)
 ヌムン(飲む) ヌマミルン(飲ませる)
 ンヌン(見る) ンナミルン(見させる)
 ムトゥン(持つ) ムタミルン(持たせる)
 ツン(切る) ツァミルン(切らせる)
 ンドウン(言う) ンダミルン(言わせる)
 トウルン(取る) トウラミルン(取らせる)

但し、ンヌン(見る)、カンドウン(被る)、ニン
 ドウン(寝る)の使役形は、ンシミルン(見させる)、
 カンシミルン(被らせる)、ニンシミルン(寝させる)
 という形でも使われる。

三段特殊型の使役形は、三段一般型に準じる。

アルン(洗う) アラミルン(洗わせる)
 クン(買う) カミルン(買わせる)
 フン(食べる) ハミルン(食べさせる)

一段型は、使役形でも r 語幹化している。そのた
 め、一段型の使役形は、三段一般型の r 語幹動詞の
 場合に準じる。

ンニルン(死ぬ) ンニラミルン(死なせる)
 ウギルン(起きる) ウギラミルン(起きさせる)
 アギルン(開ける) アギラミルン(開けさせる)

但し、キルン(する)の場合は、第一中止形の基
 幹イ段に「ミルン」を後接させる。

キ(して) キミルン(させる)

不規則な活用型の動詞の場合では次のようにな
 っている。

ブン(居る) ブラミルン(居させる)
 クン(来る) クラミルン(来させる)
 イルン(やる) イシミルン(やらせる)
 ウムン(思う) ウマミルン(思わせる)
 イユン(叱る) イヤミルン(叱らせる)
 ・ウトウトウンキヤ ダカントウ サバンヤ
ムタミルン。(弟にはヤカンと湯呑みは持た
 せる。)
 ・ンダン ンニブサタヤ、ンニティ マゲンキ
ンシミタン。(お前も見たかったら、見ろと
 言って、孫に見せさせた。)
 ・イティグンキヤ ブシ カンシミタン。(いと
 こには帽子を被らせた。)

(目差尚太)